厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）
分担研究報告書

国際標準化活動支援

研究分担者　中井川　誠　一般社団法人　日本医療機器産業連合会　専務理事

研究要旨

本研究では、ISO/IEC などの国際会議出席のための旅費を補助することで、今後、国際標準開発活動を担うべき若手人材を国際会議へ出席させ、経験を積むための機会を提供することを目的とする。国内の規格審議団体 4 団体より応募があり、海外開催の国際会議 7 つに 10 名を参加させることができた。その結果、個々の会議参加者は、対面参加することで、各国間の力関係と駆け引きを含む現場での会議の進行方法や、会議外での情報交換や関係者の協力関係構築の重要性等、多くの知見を得ることができた。また、日本提案案件を説明し承認を得る等、具体的な成果に結び付ける等国際会議における日本のプレゼンス向上にも寄与できた。

A. 研究目的

医療機器に係る国際規格（標準）が各国の薬事規制に適用され、国際ビジネスの観点においても国際規格の重要性が高まってきている。しかし、ISO/IEC などの国際標準開発活動においては、専門的人材の不足とともに高齢化が進行しており、若手人材の確保と育成が大きな課題となっている。若手人材育成上の課題の一つに、国際会議出席のための旅費調達が挙げられる（調達できずに参加が難しくなる）。そこで本研究では、旅費を補助することで、今後、国際標準開発活動を担うべき若手人材を国際会議へ出席させ、経験を積むための機会を提供してその効果を検証することを目的とする。

B. 研究方法

下記を実施した。

・医機連国際規格審議団体分科会の 17 団体に募集要項（別紙１）を配布
・応募案件を審査し、決定通知を出す。
・出張の実施及び報告書の提出。

（倫理面での配慮）

本研究は、応募者に対するイベントを実施するものであり、研究対象者に対する人権擁護上の配慮や実験動物に対する動物愛護上の配慮など、特別な倫理的配慮を要するものではない。

C. 研究結果

１．参加団体と人数

1-1 参加団体

下記 4 団体から応募があり、補助を実施した。

・（一社）日本画像医療システム工業会
・（一社）日本医療機器テクノロジー協会
・日本歯科材料器械研究協議会
・（一社）日本医療機器産業連合会

1-2 参加人数

・海外国際会議 7 会議に 10 名が参加した。

２．結果

1-1 海外国際会議への参加

別紙２：海外国際会議出張結果参照

1-2 アンケート結果 （詳細別紙 3 参照）

以下に事後アンケート結果を記す。

回答率：90%

質問１：出張旅費の補助についてどのように感じたか
大変良い：100%
＜コメント＞
・旅費補助がなければ会議への出張はできなかった。支援は非常に有用であった。(5 名。内、アカデミアは 4 名全員)
・社内の出張許可を得るのに非常に助かった。(3 名)
・モチベーションや使命感が高まった（1 名）

質問２：国際会議に対面で参加することで得られたものは何か
＜コメント＞
・対面参加により現場での議論の進め方及びコミュニケーションの取り方をよく理解できた。また、各国のエキスパートの知識や力関係も知ることができ、今後、会議に臨む上で必要となるスキルやエキスパートとしてのあるべき姿をイメージすることができた。
・会議の場でプレゼンを行い、自身の人物像や熱意を理解してもらうことができ、今後の協力関係を構築することができた。
・会議の前後や休憩時間も使って議論を行うことができるので、今後の方向性を迅速に決めることができた。また、他の WG の情報もすぐに確認することができた。
・同様に休憩や食事での交流を行うことでネットワークの構築・強化ができた。
・会議内での直接的なやりとりと、会議外でのやりとりの双方が、信頼関係の醸成ために重要であることを理解することができた。

質問３：今回の出張で、所属組織における国際標準活動への理解は変わったか。

・変わった：２２%、少し変わった：２２%、変わらない：５６%
＜コメント＞
・国際会議での発言やネットワーク形成の意義について、関係者や学会等に報告したことで、国際標準化活動の重要性に対する理解が深まった。
・初めて対面会議に参加し日本提案の試験法について説明することで FDIS ステージに進めることができた。この結果を所属組織で報告することができたのは大きな業績であり、ISO 活動の意義を伝える貴重な機会となった。
・所属組織における国際標準活動については一定の理解は得られているが、今回の補助金のような制度があれば、活動のしやすさはより活発になると思われる。特に若手を現地に同行させて勉強させる、経験を増やす機会ともなりえるので、是非ともこういった補助金制度は今後も継続していただきたい。
・所属組織では標準開発の重要性が元々理解されていたので、今までと大きな変化はなかった。

質問４：今後も旅費補助の仕組みを利用したいか。

是非利用したい：１００%
＜コメント＞
・このような仕組みがないと出張の機会を得ることができないので、是非継続して欲しい。
・海外で開催される国際会議については出席ができず、議事録等のみでは継続性のある議論の経緯等を把握することは難しいため是非継続して欲しい。
・このような仕組みがあった方が会社からの理解を得られやすいため、是非継続して欲しい。
・このような仕組みがないと、若手や引継予定者を同行させる予算がないので、是非利用していきたい。

D. 考察

本研究の目的は、今後国際標準開発活動を担う若手人材が経験を積むための機会を提供することにあったが、個々の会議参加者にとっては多くの成果を得る機会になったと考える。具体的な成果としては以下が報告された。
・現場にいることでしかわからない各国間の力関係

と駆け引きや、会議外での立ち話も重要な議論と情報交換の場であること、休憩や食事等でネットワーキングが行われること、等について理解できたこと。
・会議の中で発言の機会を得て日本提案の案件を次ステージに導いたこと。また、日本の意見をプレゼンすることで本事業による出張者が新しい日本代表エキスパートに任命されたこと。
・所属組織への出張報告によって、所属組織の国際標準活動に対する理解が深まった。

一方でこのような補助がなければ国際会議出席のための海外出張はできないと答えた参加者が 5 名（56%）おり、上記の活動を継続するためにも、次年度の国際標準化支援事業の継続が強く望まれる。

E. 結論

今後国際標準開発活動を担う若手人材に旅費の補助を行うことで国際会議へ参加させ経験を積ませたことで、参加者の今後の国際標準開発活動にとって有益な成果を得ることができた。また、出席した会議における当人の活躍により、当該会議における日本のプレゼンスの向上が認められ、今後の国際標準に係る協議において、日本の考え方や提案を反映させる可能性を高める効果があった。

こうした効果を踏まえ、本事業の次年度の継続が望まれる。

F. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

特になし

別紙１

国際標準化活動支援事業の事務手続きについて

１．趣旨

我が国における今後の国際標準獲得推進（医療機器分野）を担う人材育成推進事業のうち、国際標準化活動支援事業（以下「活動支援事業」という。）を適正に実施するための事務手続きを定める。

２．活動支援事業の内容

（１）事業の目的

若手人材の育成により、各 TC において、持続的に現在と同程度あるいは、より積極的な国際標準獲得活動ができる体制の整備・構築を目的とする。

（２）対象者（「若手」の定義等）

ア．若手人材を国内・国際会議に派遣する際には専門家（エキスパート）に随行することを想定する。

イ．「若手」とは概ね 45 歳以下の者（ただし、議論に付いていけるようある程度技術面も分かる者）を指し、また後進育成の観点から、少なくとも１期２年の活動（会議派遣のみならず定期的な TC 会議等への出席を含める）ができることを前提とする。

ウ．年齢については長期にわたる今後の体制構築に貢献できるのであれば、上記の「概ね 45 歳以下」にはこだわらない。

エ. 各 TC においてエキスパート登録している人材であっても上記条件に当てはまれば派遣対象とする。

オ．ある程度のテクニカルなスキルを有し、会議の議論についていける人材であれば、エキスパートに随行せず、単独で出張し会議に参加することを可とする。

カ．業界団体に所属し、会員/委員として長期にわたる今後の体制構築に貢献できるのであれば、アカデミア人材も派遣対象とすることができる。

（３）対象人数

１つの会議に原則１名とする。２名以上の派遣が必要な場合は、その理由を明確にする。

（４）助成費用

ア．対象経費

交通費（航空運賃及び国内及び国外における交通費）、宿泊費

イ．費用の算定方法

対象者又は対象者を派遣する組織が負担した実費相当額を原則とする。ただし、実費相当額が、派遣時の為替レート、標準的な運賃及び宿泊費を著しく上回る場合には、医機連において額を調整することがある。

３．活動支援事業の事務手続きについて

（１）派遣の申請

ア．申請者は、当該会議に要員を派遣する業界団体とする。

イ．申請者は、別添１の派遣申請書兼出張計画書（以下「申請書」という。）を医機連に提出する。

ウ．申請書には、プログラムや会議の開催案内の写し等派遣する会議の目的や概要（スケジュールを含む）のわかるものを添付する。

エ．申請書は、原則として、会議への参加のための出発日の７日前までに提出する。

（２）派遣の決定及び通知

ア．医機連は、申請書を受理した後、内容が適正と認められる場合には、活動支援事業の対象とする旨申請者に通知する。

イ．アの通知後に、申請内容に変更があった場合には、申請者は、修正のうえ、速やかに申請書を再提出する。医機連は、当該申請書を受理した後、内容が適正と認められる場合には、活動支援事業の対象となる旨申請者に再度通知する。

ウ．ア及びイの通知後に、派遣を中止する場合には、申請者は、速やかにその旨報告する。

（３）費用の請求

ア．費用の請求者は、活動支援事業の対象となった会議に係る対象経費を負担した者とする。

イ．費用の請求者は、別添２の費用請求書を医機連に提出する。

ウ．費用請求書には、対象経費の支払に係る領収書（支払の事実や明細のわかるもの）を添付する。

エ．費用請求書は、原則として帰国日から７日以内に提出する。

（４）費用の支払い

ア．医機連は、費用請求書及び対象経費の支払に係る領収書を受理した後、内容が適正と認められる場合には、請求額又は２（３）イによって調整した額を、費用の請求者が指定する口座に振り込むものとする。振込手数料は、医機連が負担する。

イ．２（３）イの調整は、以下の基準を基本として、その２倍の額の範囲内で行う。ただし、空席、空室がない等２倍の額を上回る特段の事情がある場合には、請求額とすることができる。

・為替レート：対象経費を負担した者が、当該費用を支払った年月日の為替レート
・航空運賃：エコノミークラス利用
・宿泊費：宿泊する地区のホテルで標準的な室料
・その他：現地の状況を踏まえてその都度決定する。

（５）活動報告書の提出

ア．対象者は、派遣された会議に関する活動報告書を、帰国日から１か月以内に医機連に提出しなければならない。報告書の提出が、２０２５年３月３１日を超えることが見込まれる場合には、速やかに医機連に報告しなければならない。

イ．報告書には、派遣された会議の開催状況がわかる資料を添付する。

別紙2

海外国際会議出張結果

出張者No.	所属団体	日程	訪問機関名	目的及び成果
1	日本医療機器産業連合会	令和６年８月２１日 ～ 令和６年８月２４日 （４日間）	ISO/TC210 WG1会議 デンマーク規格協会、コペンハーゲン・デンマーク）	TC210 WG1 会議の下記議論に参加した。 ・2025 年 1 月 15 日～2025 年 6 月に実施予定の ISO13485 に対する Systematic Review（定期見直し）の方向性と計画策定。 ・New Work Item Proposal について、審議・承認。 ・2025 年 3 月開催の TC210 総会での活動項目議論 ・その他
2	日本医療機器テクノロジー協会	令和６年９月９日 ～ 令和６年９月１３日 （５日間）	ＩＳＯ／ＴＣ１５０／ＳＣ２／ＷＧ４年会 ドイツ規格協会、 ドイツ・ベルリン	当該WGが取扱う規格の協議にエキスパートとして参加。以下結果概要。 ・New work itemsとして、ISO18193:2021の修正要望あり、DIS発行の為の改定作業を行い、現行の2021年度版の6. Informationの情報では不足していることから、見直しを行った。 ・試験条件(-50mmHg)の根拠設定の確認、AnnexのD2の試験方法を削除、等の修正を行い、概ねDISの発行に向けての準備が完了した。今後、DISの投票を経てコメント収集予定。 ・その他
3	日本歯科材料器械研究協議会	令和６年10月10日 ～ 令和６年10月18日 （９日間）	第60回ISO/TC 106年次会議 アーネスト N, モリアル会議場、米国・ニューオリンズ	・SC6のエキスパートやコンビーナを中心とした各国代表者を前に日本からの提案内容をプレゼンした。 ・今回のISO/TC106年次会議を通して、SC6への参加者を中心 に米国・ドイツ・オーストラリア・中国・イタリアなどの各国代表者と、今後の国際標準化活動において協力し合える関係を構築できた。
4	日本歯科材料器械研究協議会	令和６年10月10日 ～ 令和６年10月18日 （９日間）	第60回ISO/TC 106年次会議 アーネスト N, モリアル会議場、米国・ニューオリンズ	３つのWG及びTC 106総会に出席した。事前準備も実施し、WGメンバーの意見確認を行い総会への出席を行った。以下実施項目。 ・WG7：インプラントボディとアバットメントの議論。2025年1月末までにNWIPを提出することとした。小委員会が設立され出張者が担当としてアサインされた。 ・WG10：出張者が検討に参画してきたISO/DIS 7405（生物学評価方法）の審議を行いFDISへ向けた作業を行うことが合意された。 ・WG13：ISO/DIS 18374（AI関連規格検討含む）について議論。本WG

				では初めての対面会議であったことから、各国代表と交流ができ、今後のコミュニケーションに向けた人脈を構築した。 ・その他。
5	日本歯科材料器械研究協議会	令和６年10月11日 ～ 令和６年10月18日 （８日間）	第60回ISO/TC 106年次会議 アーネスト N, モリアル会議場、米国・ニューオリンズ	４つのWGとSC1及びTC106の総会に参加した。 ・DIS 6877, ISO 9917-1, ISO 9917-2, ISO 18374, ISO 24277などに関する審議・改訂作業を実施。 ・WG13ではAIの歯科分野への導入や患者安全に関する今後の議論の中で、出張者が日本からの意見を精力的に発表したこともあり、新日本代表エキスパート（TC62のリエゾンも兼務）に任命された。 ・その他
6	日本医療機器テクノロジー協会	令和６年10月20日 ～ 令和６年10月26日 （７日間）	ISO/TC194 会議 AFNOR（フランス規格協会）、フランス・サンドニ）	・WG14と17の会議に参加。 ・WG14:TS11967、TS25364、TS25364、UF算出式、FDAのガイダンスドキュメント等の議論に参加。 ・WG17：TR10993-22について、７つのサブWGの活動状況報告を含め、TSへの改訂について議論が行われた。
7	日本医療機器テクノロジー協会	令和６年10月20日 ～ 令和６年10月25日 （６日間）	ISO/TC194 会議 AFNOR（フランス規格協会）、フランス・サンドニ）	・WG9の会議での以下議論に参加。 ・ISO/CD10993-7（医療機器の生物学的評価）改訂に関する計画策定、及びコメントへの対応方針 ・FDA Thrombogenicity study ASTM F2888 PL試験プロトコル ・その他
8	日本画像医療システム工業会	令和６年12月2日 ～ 令和６年12月7日 （６日間）	DICOM Standard Committee（DSC）meeting at RSNAs会議 マコーミックプレイスセンター、米国・シカゴ	DICOMでの新規作業項目（下記）に関する検討計画とWG体制他の議論に参加。 ①Enhanced Corneal Topography Map（角膜トポグラフィーマップの強化） ②DICOMweb Implementation Guide（DICOMweb実装ガイド） ③High Throughput DICOMweb Services（DICOMwebサービスの高スループット化） その他、最近の話題としてセキュリティや教育、FDAとの関係等に関する意見交換他にも参加した。

9	日本画像医療システム工業会	令和７年３月10日 ～ 令和７年３月15日 （６日間）	Personal meeting of IEC TC62/SC62B WG30会議 ドイツ規格協会、ドイツ・ベルリン	WG30 会議に参加した。以下結果。 ・IEC 63483（Methods for spectral imaging performance evaluation of computed tomography）に関する、各国・グループからのコメントに対しての議論に参加した。 ・日本からの提案である IEC 60601 2-44 の metal artifact reduction についての議論に参加し、文書の修正案をまとめた。 ・その他
10	日本医療機器産業連合会	令和７年３月２３日 ～ 令和７年３月３０日 （８日間）	ISO/TC210/JWG3 – IEC/SC62A/JWG4ジョイント会議 AAMI（米国医療機器振興協会、米国・アーリントン	・ユーザビリティ規格のガイダンス IEC TS62366-2 コメント解決等の会議に参加し、CD2 発行を決めた。 ・IEC TS62366-3（AI 製品へのユーザビリティガイダンス）の規格開発に関する議論に参加。今後の対応として、IECTS62366-2 発行に向けて、Web 会議での協議継続の上、必要に応じて、対面会議設定とすることとした。 ・その他

別紙3　海外国際会議出張者アンケート結果

出張者No.	団体	質問１：出張旅費の補助についてどのように感じられましたか		質問２：国際会議に対面で参加することで得られたことは何ですか	質問３：今回の出張で、所属組織における国際標準活動への理解は変わりましたか。		質問４：出張費の手続きについてどのように感じられましたか。		質問５：今後、旅費補助の仕組みが設定された場合、利用を検討されま		自由意見
		①たいへん良い ②普通 ③やや不満	コメント	コメント	**①変わった ②少し変わった ③あまり変わらない**	コメント	**①スムーズであった ②普通 ③やや煩雑であった**	コメント	**①是非利用したい ②利用を検討する ③不要**	コメント	
1	日本画像医療システム工業会	①	旅費の補助が無ければ、今回の会議へ参加することはできませんでした。標準化の取り組みを次の世代につなげていくうえで、このような支援はとても大切であると思います。	各国の標準化に携わっている方々とのコミュニケーションの取り方について多くの学びを得ることができました。会議室内の雰囲気や、会議中および会議前後の会話などを知ることは、対面会議への参加でないと得ることが難しいと思います。会議内での直接的なやりとりと、会議外でのやりとりの双方が、信頼関係の醸成ために重要であることを理解することができました。	③	所属組織のなかで国際標準活動の運営に携わる立場ではありませんので、本問への正確な回答はできません。	②		①	このような仕組みがないと出張の機会を得ることができないので、是非継続して欲しい	特になし
2	日本画像医療システム工業会	①	補助がなければ出張は無理でしたので、大変助かりました。	国際会議に対面で参加したことで、対面での発言の重要性を実感し、対話力の必要性を改めて認識しました。また、議論の進め方や各国のエキスパートの知識、相互の関係性など、対面ならではの空気感や駆け引きを体感できたことは、大変貴重な経験となり自分に何が必要かを認識する機会となりました。さらに、休憩時間や食事の場といった非公式な交流を通じて、各国のエキスパートと直接信頼関係を築くことができた点も、大きな成果の一つです。	③	私は大学所属の職員であるため、その立場から所属組織における国際標準活動への理解自体は大きく変わったとは言えません。ただし、日本放射線技術学会の標準・規格委員会の委員として今回の出張をしましたが、学会と企業との関係性をより意識するようになり、今後は学会の果たすべき役割をより深く理解した上で、標準化活動に取り組んでいきたいと感じました。	①	大変スムーズでした。ありがとうございました。	①	大学所属ということもあり、このような仕組みがないと海外出張は無理ですので、是非継続して欲しいと思います。	特になし
3	日本医療機器テクノロジー協会	①	社外の活動を行う上で、金銭的補助があることは会社の理解を得られるのに非常に助かった。	初の対面での国際会議でしたので、各国のエキスパートに直接会えて意見交換することができて良かった。関係構築や議論しやすさは、対面参加のメリットであった。	③	部内からは元々理解されていたので、今までと大きな変化はなかった。	②	こちらは手続きが初めてで不慣れだったが、MTJAPANからのアナウンスがあったので、何とかできた。	①	このような仕組みがあった方が会社からの理解を得られやすいため、是非継続して欲しい	特になし

出張者No.	団体	質問１：出張旅費の補助についてどのように感じられましたか		質問２：国際会議に対面で参加することで得られたことは何ですか	質問３：今回の出張で、所属組織における国際標準活動への理解は変わりましたか。		質問４：出張費の手続きについてどのように感じられましたか。		質問５：今後、旅費補助の仕組みが設定された場合、利用を検討されま		自由意見
		①たいへん良い ②普通 ③やや不満	コメント	コメント	**①変わった ②少し変わった ③あまり変わらない**	コメント	**①スムーズであった ②普通 ③やや煩雑であった**	コメント	**①是非利用したい ②利用を検討する ③不要**	コメント	
4	日本医療機器テクノロジー協会	①	本出張費用に関して、計画的に年間予算に組み込んでおくことが難しいため、社内で出張許可を得る際に補助があったことで非常に申請しやすくなりました。	会議中に分からなかった点や掘り下げて確認したかったことについて、Web上では多人数を巻き込むことになるので質問・相談はしづらいのですが、対面参加であれば会議後、コンビーナや関係者に確認することができたのが良かったです。また対面の方が、発言力の強い（一目置かれている）エキスパートがどなたか、各国エキスパート間の関係性などをより認知しやすいと感じました。その他、国際会議を共にすることで国内メンバ間の関係強化にもつながったと考えます。	③	当社内では国際会議参加含め国際標準活動の重要性について、一定の理解が得られていると感じております。一方で活動が属人化しやすいので、若手メンバへの継承を積極的に行っていくには、より組織的な対応を促していく必要があると考えております。そのためには継続的に活動に参加し、社内で実績を積み重ねていくことが重要と感じております。	①	手続きに関して、特に煩雑な点等はございませんでした。	①	社内で国際標準活動に対し一定の理解は得られていても、予算確保については様々難しい側面がございます。そのため、このような仕組みがあります と、社内で出張許可が得られやすくなりますので、ぜひ継続頂けますと幸いです。	この度は補助を頂きまして、誠にありがとうございました。まだ活動経験が浅いこともあり、web参加だけでは、どうしてもエキスパート同士の距離感や（受け入れづらい）改訂案を他国が推し進めたい背景などが掴みづらかったのですが、対面参加により理解につながったと感じております。ぜひ今後も社内に国際標準活動の重要性を説きながら、活動に従事したく思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。（若手メンバも積極的に参加させていきたいと考えております）
5	日本医療機器テクノロジー協会	①	円安の進行による旅費の高騰の時期であったため、非常に助かった。	Web会議よりも英語の発言の読み取りがクリアで、内容を理解し発言の機会が増えた。また、会議での他のWGでの進捗状況を直ぐに確認でき、今後の方向性を即時に決めることができ、実地での開催の重要性を理解できた。	②	所属組織における国際標準活動については一定の理解は得られているが、今回頂いた補助金のような制度があれば、活動のしやすさはより活発になると思われる。特に若手を現地に同行させて勉強させる、経験を増やす機会ともなりえるので、是非ともこういった補助金制度は今後も継続頂けると助かります。	②	特に煩雑とは感じませんでした。	①	このような仕組みがないと、若手や引継予定者を同行させる余裕（金銭面）がないので、是非利用していきたい。	国際標準推進においては、企業側としては、上層部の理解も乏しい面はありますが、多額な出張費が掛かることから若手が中々入り込めない現状があると考えます。これは補助金でだいぶ敷居が下がると考えられますが、その他の要因としては、英語力が足りない、自信がない、が故に参加したくないという面もあるかと思います。 私自身、これまで国際活動を行ってきた経験からすると、英語力も重要ではありますが、技術的知識（実験、製品知識、臨 床知識）が最も重要であると感じています。しかし、若手からすると、技術的知識はあるが、やはり英語が話せないという事がネックとなり、積極性の低下に繋がっていると感じています。技術知識は大学や企業側で教育すれば一定のレベルまで上げることができるが、英語は個人任せになっていることが多く、非常にコントロールは難しいと考えています。 国際標準活動推進をする為の一環として、国際標準活動で通用する英語力アップを図る活動、例えば、特定の教育コース（通信教育や英会話学校）に関して補助金を出す等、若手の英語力をフォローするような取り組みもあると、より国際標準推進も活発になるかと感じました。
6	日本歯科材料器械研究協議会	①	補助いただかなければ自費で出張せざるを得ない状況でしたので、大変助かりました。国際的な活動を継続するうえで、本制度は非常に有意義であり、今後もぜひ継続的にご支援賜りますようお願い申し上げます。	対面で参加させていただいたことで、各国のエキスパートと密にコミュニケーションを取ることができ、信頼関係の構築につながりました。また、非公式な場面での情報交換や現地の雰囲気を肌で感じることで、発言の重みやタイミングの重要性を改めて認識いたしました。	①	国際会議での発言やネットワーク形成の意義について、学内関係者や学会等に報告したことで、国際標準化活動の重要性に対する理解が深まりました。今後は、組織としてもより積極的に参画していけるものと感じております。	①	案内や手続きのフローが明確であったため、申請から報告まで特に問題なく進めることができました。ご丁寧なご対応に心より感謝申し上げます。	①	このような仕組みがなければ出張自体が難しく、国際的な議論への貢献や情報収集も困難となります。今後とも、ぜひ本制度の継続をご検討いただけますようお願い申し上げます。	今回のご支援により、貴重な国際交流および情報収集の機会を得ることができました。現地で得られた知見は所属組織内にも還元でき、長期的な視点で我が国の標準化戦略への貢献につながるものと確信しております。今後も、このような制度が継続・拡充されることを強く希望いたします。

出張者No.	団体	質問１：出張旅費の補助についてどのように感じられましたか		質問２：国際会議に対面で参加することで得られたことは何ですか	質問３：今回の出張で、所属組織における国際標準活動への理解は変わりましたか。		質問４：出張費の手続きについてどのように感じられましたか。		質問５：今後、旅費補助の仕組みが設定された場合、利用を検討されま		自由意見
		①たいへん良い ②普通 ③やや不満	コメント	コメント	**①変わった ②少し変わった ③あまり変わらない**	コメント	**①スムーズであった ②普通 ③やや煩雑であった**	コメント	**①是非利用したい ②利用を検討する ③不要**	コメント	
7	日本歯科材料器械研究協議会	①	補助が有ることで、モチベーションや使命感が高まって、何かしらの成果を挙げようという気になった。	各国エキスパートと面と向かって討議することで、その人となりや考え方がより理解できた。当方もプレゼンを行うことで、当方の人物像や熱意などを各国エキスパートに理解いただくことができたと考える。また各国エキスパートと今後のプロジェクトに協力し合える関係を築くことができた。	②	所属組織にて活動報告を行うことで、組織内で活動状況やその重要性を少しではあるが理解いただけたと考える。今後は、組織内の意見や要望を国際標準活動に反映できるように、組織内への情報共有を適宜行いたい。	①	手続きは非常にスムーズであった。特に問題があったとは思わない。	①	質問１にも記載の通り、モチベーションや使命感に影響が出る節もあるので、是非利用したい。	日本からの発信・発言が少なく、話の流れを欧米諸国にリードされていた節が見られた。言語的に難しいところがあるかもしれないが、もっと積極的に討議に参加することで、日本の意見を国際標準化活動により反映できるようにしていくべきと強く感じた。
8	日本歯科材料器械研究協議会	①	大変に助かりました。補助がなければ会議参加が難しかったです。	会議前後の休憩時間に各国の委員とお話することで、各国で起きている現状などを共有することができた。また、信頼関係を築くことができるため、会議の進行がスムーズでした。	①	長年ISOの活動に参加しております。特にWG 10の改訂作業に向け、日本より提案している新規細胞毒性試験法が導入され、FDISステージに上がるという段階まで、対面会議にて交渉が続けられたことは大きな業績かと思います。これまでの活動内容を詳細に本学に報告することができませんでしたが、このたびFDISにステージが上がった段階で、報告することができました。本活動が非常に大きな業績であるとともに、ISO活動の意義を学内に伝える貴重な機会となったと感じています。	①	最初に必要書類のリストをいただけていたことで、証憑類をまとめておくことができました。問題なく手続きを進めることができました。（歯科材料研究協議会の方のお力添えも大きかったです）	①	ISOの活動は継続していることが非常に大事です。 文書内容のフォローのみならず、対面会議で実際に討議した内容が文書に反映していますので、会議に対面で参加することは非常に重要です。是非とも旅費補助のシステムの継続をお願いしたく存じます。	特になし
9	日本医療機器産業連合会	①	出張旅費の補助がなければ、海外で開催される国際会議については参加することはできなかったため。	各国エキスパートとの議論、休憩、食事の際の交流等によるネットワークの構築及び現行のISO規格の記載内容の意図の理解 ・ 議論において、発言者に対する質問を含む意見の表明が非常に容易でした。	③	従来からIEC等、国際標準活動に積極的に関与しているため。	③	精算方法等を記載したマニュアルがあると非常に有用であると思います。当初、補助は、宿泊料20万円、航空運賃50万円である旨伺っていたが、精算時に、その他費用についても精算可能であることを五月雨式に連絡いただいたので精算に工数と時間を要したため。	①	海外で開催される国際会議については出席ができず、議事録等のみでは継続性のある議論の経緯等を把握することは難しいため。	国際標準獲得推進を担う人材としての力量、知見等の獲得手段として、国際会議への参画という機会の提供のみならず、教育の提供、国内関係者とのネットワーク構築等のサポートがあれば、従業員がエキスパートとして活動することのメリットを企業側もより感じるかと思います。

出張者No.	団体	質問１：出張旅費の補助についてどのように感じられましたか		質問２：国際会議に対面で参加することで得られたことは何ですか	質問３：今回の出張で、所属組織における国際標準活動への理解は変わりましたか。		質問４：出張費の手続きについてどのように感じられましたか。		質問５：今後、旅費補助の仕組みが設定された場合、利用を検討されま		自由意見
		①たいへん良い ②普通 ③やや不満	コメント	コメント	**①変わった ②少し変わった ③あまり変わらない**	コメント	**①スムーズであった ②普通 ③やや煩雑であった**	コメント	**①是非利用したい ②利用を検討する ③不要**	コメント	
事務局	日本歯科材料器械研究協議会	①	国際会議へ人材を派遣するにあたり、補助が無ければ所属機関から旅費が支給されない方もいらっしゃるので、非常に有益な事業であると感じております。	会議参加者が会議以外（ウェルカムレセプションやコーヒーブレイク等）での他国参加者と交流する機会を得るができ、議論に関わる交渉や、フランクな関係を構築することが出来たと伺っております。また、コロナ禍でのハイブリッド会議を経て、対面での参加、発言は、日本の意見を会議参加者へ直接届けられるため、議論での日本としての立場を明確に表明し、提案を反映する際に重要であるとの意見も届いております。	①	ISO/TC　106では企業からの参加委員（国際的役職がない方）への旅費支援が難しいため、本事業ではアカデミア、企業の別なく、若手人材への補助を受けることが出来、後継者育成への一助となると感じました。	①	手続きはとてもシンプルで明瞭かつ迅速にご対応いただけました。	①	人材の育成は一朝一夕に進められることではないため、このような事業を継続的に進めて頂けると、日本の標準化活動がより活発化していくと想像いたしております。	昨年度、本事業の補助金を利用して3名の方が国際会議へ出張されました。 アカデミア、企業の別なく、若手と呼ばれる早期から出張旅費等の支援を頂けると、国際会議への参加機会を得ることができ、国際会議での経験、他国との関係構築など肌感覚で習得することが出来るため、ISO活動に必要なモチベーションにもつながっていくかと存じます。若手人材育成に取り組んでおります当会といたしましても、大変ありがたい事業で、改めまして感謝申し上げます。昨年度に関して一点申し上げますと、国際会議開催が10月中旬、基準額交付の通知が、8月初旬となり、交付通知日まで出張手続きを行うことができず、やむを得ずご辞退される方が発生することとなりました。補助を受けられた3名の方も出張直前まで予約等ができず、航空チケットやホテルの手配にご苦労されたケースもございました。 誠に恐縮ながら、もう少し早い段階で出張手続きが可能になれば・・・と感じたことを申し添えさせていただきます。 今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。
事務局	日本医療機器テクノロジー協会	①	当協会のISO国内委員派遣の制度（主にISO活動経験の実績のある委員対象）と、人材育成/推進を目的にした今回の医機連様の補助を、うまく組み合わせすることにより、適切で調和のとれた国際標準活動が実施できるものと考えます。	ISO会議経験の熟練者と若手とを組み合わせて対面参加できたことで、人脈形成とその持続と、会議での日本意見主張が円滑になったものと思います。	①	今回の出張を通し、従来のエキスパートの貢献に加えて、新しい人材が目に見えるようになったことで、とくに医療機器業界に影響を及ぼすISOについて、標準化活動継続の重要性を理解いただけたものと考えます。	①	MTJAPAN所属委員の理解不足で書類提出に遅延があり、ご迷惑をおかけしましたが、医機連国際部経理事務担当の渡部様のお手続きはとても円滑でした。	①	若手人財育成向けの補助は、医機連会員団体事務局としても有り難く思っております。	特になし